

日本建築士 32の4 昭18-4
無窓工場記 柳瀬 駿 14

日本鑛業會誌 59の696 昭18-4
孔込の抵抗に關する實驗的研究 (I) 青山秀三郎, 下村彌太郎 153
深槽型空氣吹込式浮選機に就て 佐藤 信一
銅の質收と選鑛 高田 實 183
浮鑛劑に關する文獻集 三野 英彦 196
鹽素化油を使用せる浮選試驗 (1) 210
マゲデブルグ法に依る亞鉛電解液中に存在する不純物の影響に就て (I) 212
炭化カルシウムを還元劑とする金屬マグネシウム製造法の研究 213

日本化學會誌 64の3 昭18-3
X線分光法に依る微量のニッケル及びコバルトの定量 木村健二郎, 中村 雅雄, 田中 信行 349
液體膜の安定度 (II) 單一泡沫の存続時間に關する實驗 中川鶴太郎, 鮫島實三郎 360

海外經濟事情 18の5 昭18-5
佛印に於ける水力電氣 21

全ハガネ商聯盟會報 5の3 昭18-3
特殊鋼需給統制規則の解説 佐久間 亨 28

日本化學總覽 17の3 昭18-3

航空研究所報告 18-14 昭17-11
東北帝國大學選鑛製鍊研究所彙報 2の2 昭18-2
粉鐵のルツベ化に就て 濱住松二郎, 大平 五郎
同上 2の1 昭18-2

Bulletin of the Chemical Society of Japan, Vol. 18, No. 2, February, 1943.
Shigeto Yamaguti: Zur Forschung der Metallkorrosion mit Elektronenbeugung 53
Ibid. Vol. 18, No. 3, March, 1943.

三菱重工業會社名古屋發動機製作所研究報告 6の2 昭18-2
軸承用銅-鉛合金 (ケルメット) に於ける不純物としての鐵に就て 丹治 道生 1

大阪帝國大學理學部研究報告 (別刷集) 第三類化學, 9 昭16.
重酸素に依る亞硫酸瓦斯の接觸變化 中田 茂生
金屬膠質液の一製法 木村 修

工業獎勵 11 昭18-3
時局下に於ける職長の責務 (6) 松田竹太郎 1
將來の硬き試験機 佐々木一平 27

發送電 3の4 昭18-4
小倉發電所微粉炭機連絡管設置に依る出力増加に就て 吉井 嘉一, 中山 孝 8
内外線アルミ線工事見學記 江口 卓男 11

金屬 13の4 昭18-4
強腐蝕に依る特殊鋼の検査 錦織 清治 299
中性子線に依る金屬の研究 橋口 隆吉 251
金屬=オブの工業的用途 上林 慶喜 254
金屬材料の缺陷検査 尾崎秀次郎 257

東芝研究時報 18の4 昭18-4

綿ス・フ統制會報 1の3 昭18-4
勞働力の構造と勤勞管理の課題 三好豊太郎 27
戰時に於ける婦女子勞務 内野 五郎 35

資料公報 4の4 康10-4

軍事と技術 18の4 昭18-4
金屬と低溫 山田良之助 36

機械と材料 79の988 昭18-4
蒸氣の性質と高壓氣罐 石谷 清幹 170
ユニオンメルトの實驗 佐々木新太郎 178
材料試驗機漫録 (3) 齋藤 貞一 190

造船協會雜纂 251 昭18-2
ユニオンメルトの實驗 佐々木新太郎 35

東京工業大學學報 11の10 昭17-10
塊鑛爐の操業 松井元太郎 327

北 光 50 昭17-12
鋼塊鑛型の設計 益田 義三 48

土木試驗所報告 69 昭18-1

神 鋼 7の25 昭18-3
發生爐瓦斯中の硫黃の分析並にその鋼浴に及ぼす影響に就て 3
鍛造用磷青銅の鑄造に就て 25

日立評論 26の4 昭18-4
アルミ巻線變壓器 作田正治, 首藤 清 173
鋼索の強度に就いて 安河内春雄 207
硬質クロム厚鍍金作業の標準化 小池 貞藏 223
鑄鋼用肌砂の剝落 松田 哲男, 清水 三男 227
高速度鋼の燒入能力に及ぼす冷却速度の影響 小柴 定雄 232

業 界 雜 報

制度經營の改善

耐火煉瓦等の圓滑なる需給を計る爲に需給協議會が設置された 東毎 0412

鐵鋼統制會では目下重點産業への鋼材配給の圓滑化を計る爲、現在の鋼鐵販賣機構の改革を決定、着々その準備を進めてゐる。東朝、0422

農林省では今回 50 萬圓の豫算を以て、木炭發生爐裝置に補助金を交附する事になつた 日産 0416

帝國鑛發では、日本産金合併により金鑛業局を設け今後の産金事務を取扱ふことになつた 日産 0501

大東亞資源の高度活用を計る爲に商工省内に東亞資源活用協議會を設置した 東毎 0506

滿州石炭協議會々長に前滿鐵理事撫順炭礦長 久保孚氏が就任した 日産 0507

逓信省では五大産業の電力確保の爲需用區分表を近く改正する事になつた 日産 0425 東朝 0504

鐵鋼統制會では 鐵鋼配給の緊急體制を整備する爲配給機構並に業刷新要鋼が漸く成案を得たので商工省の認可を受けた後 実施することになつた 日産 0416

鐵鋼統制會では、特殊鋼増産にあたり、一聯の對策として砂鐵の増産による特殊鋼原料、原鐵の積極的増産を意圖し鑛山統制會と連絡協議をして具體的實施を圖る事になつた。日産 0502

鐵鋼製品工聯では大阪に關西支部を設立する事に決定した。日産

0512

米國政府では東部炭礦地方を軍管理のもとに置いた結果、罷業鑛山の再開炭礦の採掘を監視する爲炭礦監視委員會を組織した 東毎 0505

罷業中止せざれば大統領斷乎たる彈壓態度に出ると通告した 東朝 0501

南方諸地域の鑛物資源開發技術員養成をする南方鑛業學院は第一回入學式、開校式を舉行した 東毎 0415

日本鋼管では今回特殊鋼原料製造會社の秋田製鋼の全株を譲り受けこの經營に乗り出す事となつた 日産 0422.

昨年度の國鐵の運輸收入成績は 14 億圓と發表した 東朝 0503
クロム鑛の公定價格近く決定の豫定である 日産 0418

石炭統制會では樺太諸炭礦に對し内地と一元的に經營する爲、具體的な實施方法を攻究する事になつた 日産 0418

臺灣鐵工業統制會では運營方策推進に關し 26 日臺北鐵道ホテルに於て評議會を開催した 臺日 0410

人造石油増産の爲日窒では經營權を帝然に委讓する 日産 0422
鐵鋼販に事務、配給機構の改正をおこなひ、鐵鋼配給の一連の方策が採れる事になつた 日産 0422

川口鑛物工業組合では決戦下の船舶用内燃機關の増産に邁進するため協力會を結成した 日産 0510

文部省では決戦下科學の根本的振興を計るため、本年度、科學研究費 500 萬圓を以て 124 箇所の研究機關にこれを擔當させることになつた 東毎 0427

鐵鋼増産確保の爲全國工場で一齊に鐵鋼隣組工場を結成、營務、賃金の隘路は常會で解決する事になつた 日産 0425

臺灣鐵工業統制會では先に認可された統制規定第 6 條の規定に基づき受注査定細則を決定 4 月 1 日實施する 臺日 049

單純製鋼、歴延業者にも補助金を交附すると 20 日發表された 大毎 0422

普通鋼材、半製品にも補助金を出す事になつた 日産 0421 西日 0422

商工省では 18 年度に於ける鑛山現場係員の養成を前年度同様 4 鑛山會社をして繼續實施する事に決定した。

宮製鋼は東京シャリングを吸収合併して朝日製鋼となる事になつた 日産 0418

今回商工省では滿僉鑛増産のため帝國滿僉クロム會社を経て獎勵金を交附する事になつた 東毎 0502 日産 0501

外地の對日供給の爲、鐵鋼適正販賣價格を制定、銑鐵 13.5% 鋼材 30% の値上を行なつた 滿日 0407 大毎 0421

増産及び勤勞者の向上を計る爲産報で各企業體、統制會、政府に要望すべき事項等に關し具體方策を決定した 日産 0506

日鐵鑛業では取締役藤田俊三氏の後任に陸軍中將野口正義氏が選任された 日産 0427

石炭統制會では今回新に労働作業用品配給委員會要綱なるものを設定し炭礦戰士へ迅速に労働用衣品を配給する事になつた 日産 0410

鐵鋼統制會では統制運營に萬全を期する爲顧問參與制度を設ける事になつた 東毎 0418 東京 0417 大阪 0417 大朝 0415

金屬回收本部參與に民間の有識經驗者 26 氏を任命した 東毎 0416

石油代燃車便用装置の審査委員決る 日産 0422

商工省では特殊鋼の計畫生産と併行してこれが重要な原料である合金鐵の配給統制を完璧化し以てその需給調整を行なふ事となつた

日産 0420

華中鐵鋼統制會協議會では鐵鋼資材の一元的統制機構の整備に關して種々の具體策を講ずる爲日俱に於て協議會を開催した 上大 0318

勅令により鋼材の價格調整令を發動した 日産 0421

特殊鋼販では特殊鋼販配給強化する爲同社直營倉庫の機能を増充して重要方面への配給を確保する事になつた 日産 0427

厚生省では指定炭礦の勞務の調整を行ふ事になつた 日産 0422 鑛山勞務供出を積極的に行なふ事を申合せた 日産 0429

大日本鑛報會を設立し機關誌發行等の指導を行ふ様になつた 日産 0422

猶豫中の鐵、鋼製品販賣禁止 23 日地方長官宛に發した 讀報 0425
特殊鋼特約店組合東部、西部の二本建に決定した 讀報 0425

山口縣に特殊鋼の販賣、特約指定の整理成る 關日 0414

鑛石製鍊用燒取釜の價格又銑鐵鑄物のどの種類適用かは現物で當局に相談するのが早解りである 日産 0426

朝鮮鐵鋼統制會支部並に鐵鋼販支店では實需者へ需給計畫化の趣旨徹底、發券手續及、實需者との連絡を圖る爲、全鮮に亘り巡回説明班を派遣する事になつた 京日 0418

夏季の鐵鋼生産能率低下防止について滿洲鐵鋼協議會ではこれに關し會議を開いた 滿日 0511

本年度生産擴充と電力國民動員計畫を開議で正式に決定した 日産 0504

商工省では石油專賣法を實施するため、燃料局官制を改正して 6 箇所に地方燃料局を新設する事になつた 東朝 0504

鐵鋼統制會では特殊鋼部を設置し部長には山田滿氏(理事)が決定構した 中日 0402.

重點産業への鋼材配給圓滑の爲、直賣分野を擴大、即ち鐵鋼配給機構の改革を行なつた 大毎 0422

鐵鋼製品工聯で鹽酸等の取扱ひ要領改正を行つた 日産 0422

地方金屬回收會社の魁中部は創立した 又、各縣に專任の屬官技手 3 名を置く事になつた 日經 0423 高知 0416

重點配給確立のため鐵鋼類配給機構を 10 月改革斷行すると榊谷義二は述べた 關日 0424

半島鋼材を重點方面に優先的共配制度を行つた 京日 0408

半島の鋼材配給機構の整備は愈々決定した 京日 0407

原料設備の増強
18 年度金屬非常回收は遊休設備に重點を置き種々の對策が定例閣議に附議決定をされた 大阪 0417 東朝 0417 東毎 0417

石炭統制會では石炭戰力擴充運動に力を注ぐと共に新炭礦開發の手段として全國的に地質的探礦を行ふ事になつた 日産 0420

東鑛局では特許局會議室に管下全鑛山、及び炭礦の潤滑油擔當者を招き適正潤滑油一覽表を配布しこれに基づき潤滑油節約の徹底を期する様申渡した 日産 0418

鋼管青島熔爐は鑛年内に完成 日産 0421

金山の資材、諸機械を鑛山へ轉進し鋼の増産を計る事になつた 日産 0421

朝鮮總督府では小型熔鑛爐緊急増設計畫の遂行をはじめ半島をして大製鐵基地たらしめ鐵鑛石生産制當を行なつた 京日 0510

昭和製鋼所では背後地 4 縣の育成工作を更に積極化し農村の餘剩勞務力を製鋼所に供出して現下の緊要事たる製鐵増産に遺憾なからしめる事となつた 滿日 0425

日本機器工聯では第二次整理用鋼材の割當額が決定した 日産 0423
半島の金屬供出は豫想の外の良成績で總額 40 萬點を超へた 京日 0406

鐵鋼統制會では各工場の殘存屑鐵の回収を圖るため 4 月 1 日より一月を鐵屑非常回収運動實施期間と定め強力なる回収運動を全國的に展開する事になつた 中日 0326

大阪市の鐵鋼供出量が戰艦一隻出來ると言ふ好成绩であつた 東母 0413

滿洲國政府は鋼増産方策要綱を決定、銅鑛石の一部を朝鮮に送り精鍊を委託する事になつた 日産 0512

鐵鋼増産に邁進する東洋拓殖會社では今回三和鑛山を買収し一層増産に拍車をかける事になつた 日産 0426

戰爭完遂の戦力増強に必要な重要資源たる鐵鋼の回収、輸送に遺憾なきを期して金屬回収を強力に行なふ事になつた 徳島 0503

比島鑛業が本邦の要求に大に應じ得た原因は貯鑛が豊富であつた爲である 日産 0419

小坂より酸化亜鉛、酸化鉛、銑鐵の回収を企圖し東北亞鉛鑛業大館工場が落成した 日産 0422

高爐セメント珪酸質混合セメントを増産し以て供給の増加を圖つてゐる 日産 0427

帝國鑛發では低品位鑛石の多量處理を必要とするので産鑛地帯の選鑛場の建設へ積極的に乗出し和歌山縣の那智鑛山地内の那智中央選鑛場も隣接高原鑛附屬工場として建設工事に着手することになつた 日産 0410

蒙疆懷仁縣下に優秀大炭坑が発見され、大同炭坑で開發する事になり開坑式を舉行した 東每 0511

岡山縣と廣島縣との縣境の備北の山峽に有望なる磁鐵鑛山が発見され積極的に開發を行なふ事になつた 中合 0327

政府では鐵鋼生産増強のため價格調整補給金制度を實施する事になつた 京日 0421

朝鮮兼二浦の小形爐の火入式が 4 月 30 日行なはれる 釜日 0326
京日 0404

半島小型爐今年中完成に努力す 京日 0418

製鋼用ジュリコン、モナダイト、重要資源新竹州に無盡藏、産金會社で採掘許可願を出した 臺日 0410

東邊道開發會社の純鐵爐は 20 日晴の火入式を舉行した 滿洲 0429
日鐵清津小型爐は 3 日に火入式を舉行した 東朝 0504 京日 0501

昭和製鋼所では今回 5 年間の勞苦が報いられた大東亞一の捲揚機の製作を完成して運轉を開始した 哈 0423

北支では續々と製鐵事業が開始されてゐるが今回日本鋼管でも華北製鐵會社を設立する事になつた 大每 0514

北支那石景山に於ける日鐵の小型爐 2 基に火入式を行なつた 大朝 0423

東鐵局内炭坑出炭率は 40% 以上増産した 日産 0421 金山を時局むきの鑛山へ諸態勢を廻す様になり、これも豫定通り進んで居る 日産 0429 東每 0410

華中に小型爐續々建設、鐵鋼増産に全力を上げ協力、一方アヂヤ鑛廠、浚川日鐵、日亞鑛業廠の 3 社で華中製鐵株式會社を設立し小型爐を建設し現地原料を持つて銑鐵生産に乗り出す事になり、來年中には操業を開始する 蒙疆 0502

ソ聯では歐露の重工業地帯を失つたので物的抗戦力の培養地として懸命にウラル地方の建設發展を計つてゐる 東每 0510

岐阜縣陶磁器試驗場では褐鐵鑛より海綿鐵製造に着手し企業製備に伴ひ東濃地帯の陶業地の遊休設備を利用して海綿鐵の増産に乘出す事になつた 日産 0502

硫安、硫酸、火藥の主要原料として硫化鐵鑛の緊急増産対策が要望せられ、政府も更に新獎勵策を實施して硫化鐵鑛の積極的開發を圖つてゐる 哈 0512

滿洲皇帝陛下には青城子鑛山に御臨御、親しく坑道内を御視察遊ばされた、鑛山全従業員は帝恩に感泣し増産完遂を誓ひ合つた 日産 0509

蒙疆に於ける前年度の資源開發は順調で、現地製鐵は今年度夏より操業を開始する事になつた 日産 0419

日本精鍊中瀝鑛業所ではアンチモニー増産の爲既設沈澱池に堆積してゐるアンチモニー鑛の回収を行ふ事になつた 日産 0418

北支物動計畫は石炭、鐵、棉花、鹽等の増産、増送を重要視して當局でも速かに實施に移す事になつた 東每 0508

日鐵鑛製鐵所では増産に破竹の勢を示し設立以來の新記録を續出してゐる 日産 0423 鹿日 0329 徳島 0329 西日 0328

中支に於ても各所に多數の小型熔鑛爐を建設して、日本の鐵鋼増産に全力を擧げて協力する事になつた 日産 0424

創業 5 周年を迎へた滿業では 5 年間に於ける關係會社の生産實績の調査集計を行ひつゝあつたがこの程その指數表を完成した 哈爾 0512

滿洲輕金屬、アルミ増産に安東工場を擴充復活を期した 日産 0421
技術操業の向上

茂山の三宅技師は採鑛、鑛石、運搬、發破等に付いての種々の新しい能率的な採鑛法を研究考案した 日産 0512

ルブラン法ソーダ工場を活用してマグネの増産策を期した 日産 0421

砂鐵より同時に純鐵と酸化チタンの精鍊法の研究を近く公開實驗を行ふ 日産 0428

村上精鍊所の長谷川三郎氏より鉛精鍊の新方式が考案され、煙害をも除去される様になつた 日産 0427

北支の小型熔鑛爐の出銑率は豫期以上の好成绩で出銑豫定量は優に確保し得るものと期待されて居る 日産 0423

京大教授堀場信吉博士により水銀の船底塗料が考案された 東朝 0509

北海道炭礦夕張鑛業所、新夕張鑛長小松三四郎氏は炭礦勞務管理の刷新と採炭能率の向上に新構想をこらし好成绩を上げ今回日本鑛業會から渡邊賞を授けられた 日産 0427

鑛山統制會では選鑛劑の不足対策としてシトロネラ浮鑛油の適正使用法を決定した 日産 0418

苦汁対策に温泉を利用し砂層貫流法を用ひた 日産 0422

アルマイト工業に於ける皮膜劑の舊酸の代りに廢酸回収の研究を行ひつゝある 日産 0422

日鐵では製鐵、鋼法の基本研究を行ふ研究所を川崎と埼玉に設置する豫定である 東朝 0504

3 寸釘で大格納庫(張間 42 m)主結合點はボルトを利用し鋼材の節約 6 割強であつた 東朝 0420

商工省では選鑛劑不足に對處する爲代用品合成の研究を行つたが今回カヤから起泡劑を取る事に成功した 日産 0410

今回電氣試驗所、宮本慶巳博士により熔鑛爐操業用原料捲揚裝置の故障防止の研究が完成された 日産 0413

科動では火花検査普及を圖る爲火花委員會とを設け近く火花検査指導書を編纂して關係官廳各學會へ提議する事になつた 日産 0416
 鐵鋼, 製品, 工聯, 線材部門でダイスに關する研究を行なつた 日産 0422

新製鹽法で製鹽費 kg 當り 8 厘で一等鹽が出来る様になつた 日産 0422

斜面流下式製鹽法により一工程で採鹹結晶を行なつた 日産 0422
 高速度鋼の鑄物, 鑄造は不可能であつたが今回東北帝大附屬金屬材料研究所教授理學博士大澤與美氏により成功された 大阪 0510
 無煙炭爐が半島出身者により研究發明され, 製鐵界に一大革新をもたらした 京日 0414

東北帝大附屬金屬研究所理博岡村俊彦氏の前々 7 年に亘る苦心研究の謀果大量生産不可能とされてゐた カーボニル鐵 の生産装置が發明された 鹿日 058 北海道 059

文部省では戰時研究體制を益々擴充するため各帝國大學に五つの研究所を新設した 東朝 052

四月中開催工業品規格統一調査會委員會並に其の議題

第 1 部

- 1. 第 1 部第 5 委員會 4.5
 - 1. 鐵及鋼砒素分析方法
 - 2. 鐵鑛石砒素分析方法
- 2. 第 1 部第 1 委員會打合會 4.21
 - 1. 炭素鋼管材臨時日本標準規格案 (日本製鐵提出)
 - 2. 罐用鋼板の寸法單純化
 - 3. 日本標準規格第 338 號薄鋼板及中鋼板の寸法及重量の改正
 - 4. 日本標準規格第 339 號薄鋼板及中鋼板の寸法及重量の公差改正
 - 5. 日本標準規格第 89 號厚鋼板の改正
 - 6. 臨時日本標準規格二形鋼寸法一部追加の件
 - 7. 臨時日本標準規格第 162 號標準棒鋼に追加の件

第 2 部

- 3. 第 2 部第 12 委員會 4.13
 油脂類分析及試驗方法
- 4. 第 2 部第 24 委員會 4.16
 枕木防腐處理方法
- 5. 石油工業裝置に關する打合會 4.23
- 6. 第 2 部第 21 委員會 4.23
 色
 色 (製作小委員會)

第 3 部

- 7. 第 3 部第 5 委員會 4.8
 - 1. 電動機の定格出力 (日本電機製造協會提出)
 - 2. 回轉電機の軸中心高 (日本電機製造協會提出)
- 8. 第 3 部第 7 委員會 4.19
 - 1. 自然乾燥仕上ワニス及同試驗方法
 - 2. 加熱乾燥仕上ワニス //
 - 3. コイルエナメル //
 - 4. 自然乾燥コイルワニス //
 - 5. 加熱乾燥コイルワニス同試驗方法
 - 6. コーアワニス

- 7. エナメル銅線用ワニス
- 8. 接着用ワニス
- 9. 膠着用ワニス
- 10. 絶縁布ワニス
- 11. ワニスチューブワニス
- 12. 電線用アセチルセルローズ塗料及同試驗方法
- 9. 第 3 部臨時第 2 委員會打合會 4.20
 フェノールレジン積層管及棒並に同試驗方法規格の數値に關する打合會
- 10. 第 3 部臨時第 2 委員會 4.21
 - 1. フェノールレジン積層棒
 - 2. " " 試驗方法
 - 3. フェノールレジン積層管
 - 4. " " 試驗方法
- 11. 第 3 部第 8 委員會 4.27
 - 1. 日本標準規格第 367 號低壓碍子ノック規格改正
 - 2. 日本標準規格第 366 號低壓碍子クリート規格改正
- 12. 第 3 部第 9 委員會 4.27
 日本標準規格第 330 號銅管端子規格改正
- 第 4 部
- 13. 第 4 部第 4 委員會第 2 小委員會 4.2
 - 1. インポリユート齒切フライス
 - 2. ホブ
- 14. 第 4 部第 2 委員會 4.8
 - 1. 水道用水量水器規格
 - 2. 水道用ゴム規格
- 15. 第 4 部第 12 委員會 4.12
 - 1. 自動車用スプライン
 - 2. " ユニオン管接手
 - 3. 自動車用ナット
- 16. 第 4 部臨時第 3 委員會 4.13
 起重機
- 17. 第 4 部第 1 委員會 4.14
 - 1. 叩スパナ
 - 2. 刻印に依るねぢの表示方法
- 18. 第 4 部臨時第 2 委員會 4.19
 分級機
- 19. 第 4 部第 1 委員會第 3 小委員會打合會 4.20
 細目ねぢの公差規格制定に關する調査方針の打合會
- 20. 第 4 部第 2 委員會 4.21
 フランジ規格中改正
- 21. 第 4 部大釘に關する打合會 4.23
- 22. 第 4 部第 14 委員會 4.27
 鋼索規格改正
- 23. 第 4 部臨時第 1 委員會 4.30
 自轉車